

研究課題名 小児期または若年成人期における骨髄非破壊的移植後の性腺機能の研究に関する情報公開

1. 研究の対象

2001年1月1日～2017年10月31日に当院小児科にてフルダラビンと低線量全身放射線照射を使用した骨髄非破壊的前処置による同種造血幹細胞移植を施行された方

2. 研究目的・方法・研究期間

小児血液悪性腫瘍の治療成績は近年向上しており、長期間生存を得られる患者さんは年々増加しています。しかし一方で、腫瘍そのもの、または化学療法や放射線治療による長期にわたる合併症による生活の質の低下が問題となってきました。造血幹細胞移植は、強力な化学療法や放射線照射を行うため、最も合併症のリスクが高い治療法の一つです。性腺機能への影響に関しては、小児期に造血幹細胞移植を受けた女性の89%、男性の69%で生殖障害をきたすことが報告されています。前処置の強度を減弱した骨髄非破壊的移植は、成長・発達途上である小児に対して、従来移植法と比較して晩期合併症が軽減されることが期待されていますが、性腺機能を含めた実際の晩期合併症に関する研究報告は十分ではありません。

本研究では、小児期、思春期または若年成人期に骨髄非破壊的前処置による同種幹細胞移植を受けた患者の性腺機能を評価し、性腺機能に影響を与える因子を考察します。本研究によって、性腺機能障害の程度を予測することが可能となり、これから移植を受ける患者さんにとって、治療方法の選択や妊孕性温存を検討する上で有用です。また、将来的には、性腺機能を温存した治療法の開発に役立てることができそうです。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤・放射線治療の治療歴、移植前処置の内容、移植時年齢、ホルモン値、性腺ホルモン補充療法の有無 等

3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院小児科 成田 敦

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話：052-744-2294、ファックス：052-744-2309

研究組織

1 研究責任者（所属・職名・氏名）

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 教授 高橋 義行

2 研究分担者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院小児科 助教 村松秀城

名古屋大学医学部附属病院小児がん治療センター 病院助教 成田敦

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 医員 谷口理恵子

名古屋大学医学部附属病院小児科学 医員 西川英里